

パートナー企業における 文化・芸術支援活動

境 雅実

東京国立近代美術館の企業による美術館支援制度「MOMAT支援サークル」は、三年目を迎え、プラチナパートナー二社（木下グループ、ラグジュアリーカード）、ゴールドパートナー三社（三菱商事株式会社、大日本印刷株式会社、アバントグループ）、シルバートナー七社（鹿島建物総合管理株式会社、丸紅株式会社、パシフィックコンサルタンツグループ株式会社、日本電子株式会社、セイコーホールディングス株式会社、全日本空輸株式会社、三井住友海上火災保険株式会社）にご加入いただいています。

当館では、コレクションの保管・展示や、企画展を精力的に展開するほか、来館者サービスの充実に努めており、例えばこれまで美術館に縁のなかった層にも美術を楽しんでもらえるよう、千代田区と連携したイベント「美術館の春まつり」や、夏休みの子どもたちに向けたイベント、仕事帰りの社会人に向けたナイトイベントなどを提案する「MOMATサマーフェス」など、様々なイベントを行っています。こうした事業も、パートナー企業からのご支援により回を重ね定着してきました。

当館は、日本で最初の国立美術館として、一九五二年に中央区京橋に開館しました。その後、所蔵作品の増加と企画展の拡充等により、コレクションの展示が次第に制約されるようになったことから、美術館の移転が検討されていたところ、ブリヂストンの創業者で、当時、当館の評議員をしていた石橋正二郎氏から、美術館建築の寄附申し入れがあり、その厚意によって、一九六九年、千代田区北の丸公園の現在地に、建築家谷口吉郎氏設計による新館が開館しました。その石橋正二郎氏は、こんな言葉を残しています。「人間は生れて一生を只生きるだけで終るのでなく、楽しく幸福に一生を過

し、生き甲斐あることが何より大切で、これには衣食住凡ての生活環境の向上が必要で、それは文化の発展によってもたらされるものであります」「註1」。環境保全や教育、復興支援など、社会が支援を必要としている課題は多く存在しますが、石橋氏が残した言葉のとおり、文化の発展が社会にもたらすものは非常に大きく重要です。MOMAT支援サークルのパートナー企業は、社会から求められている貢献事業を展開するだけでなく、文化・芸術の重要性を理解し支援する志の高い企業です。今回はそんな企業の文化、とりわけ美術支援の活動をご紹介します。

継続的な文化・芸術支援

木下グループは、二〇一一年よりフランスのルーヴル美術館とウジェーヌ・ドラクロワ美術館を支援しており、これまでに、ルーヴルのメインエントランスであるピラミッド下スペースの大改修プロジェクトや映画製作、ドラクロワ美術館の庭園改修など、様々なプロジェクトを支援しています。また、パリのギメ東洋美術館支援、ルーヴルやグラン・パレ、プティ・パレの展覧会支援も行っています。イギリスでは、ロイヤルバレースクールに通う日本人生徒のための奨学金制度を二〇一七年に設立しています。さらに二〇一八年には、日仏友好一六〇年を記念しパリを中心にフランスで開催されている日本の文化芸術の魅力を紹介する大規模イベント「ジャポニスム二〇一八：響きあう魂」に、オフィシャルパートナーとして協力しています。日本国内でも、京都国立近代美術館や国立映画アーカイブなどへの支援を行っています。

三菱商事株式会社は、二〇〇五年より障がいのある方のために展覧会の特別鑑賞会を、当館を始め、都内の国立美術館・博物館や各地の美術館などで毎年開催しています。また国外では、大英博物館日本ギャラリー、アメリカスミソニアン博物館フリーア美術館とサックラー美術館への支援を行っています。さらには、アーティストを志す若者たちの作品を公募・購入しオークションで販売、その売上を奨学金として給付する「三菱商事アート・ゲート・プログラム」を二〇〇八年から実施しています。

大日本印刷株式会社は、日本国内で開催される数多くの展覧会への協賛を行っているだけでなく、国内外の国立美術館・図書館と協働しています。特に、多様な技術や手法を活用しながら、より一層豊かな視点を持つて美術鑑賞を楽しむためのプロジェクト「DNPミュージアムラボ」では、二〇〇六年から八年にわたりルーヴル美術館と合計十回の展示を、二〇一六年にはフランス国立図書館と歴史的地球儀・天球儀の展示を

開催。また現在、フィンランド国立アテネウム美術館とは、アートが心や脳にもたらす好影響を活用した美術鑑賞方法を共同研究しています。

鹿島建物総合管理株式会社は、海外では入手困難な日本の展覧会カタログを、海外の日本美術研究の拠点機関に寄贈する「JACプロジェクト」に協賛し、国立新美術館が海外に向けて美術情報を発信する活動を支援しています。

丸紅株式会社では、コロ、ルノワールなどの西洋絵画や小磯良平、難波田龍起などの日本の洋画、能装束、江戸時代の小袖から近代の名匠による着物、図案など、一六〇〇点を超える作品を所蔵しており、これらを様々な展覧会に貸し出すことや、散逸させず良好な状態で次世代に伝えることで文化支援を行ってきたほか、国内では国立西洋美術館、交響楽団や各種劇場、海外ではパリの日本文化会館を支援するなど、文化活動に対する支援を幅広く展開しています。

セイコーホールディングス株式会社は、人類最古の時計である日時計や、ビッグベン振り子式塔時計のプロトタイプ、日本独特の美術工芸品として世界からの評価が高い和時計や錦絵など、世界中から収集した時と時計に関する貴重な資料をセイコーミュージアムで公開しており、一五〇〇年代の鉄棒塔時計や江戸時代の和時計を、実際に動く状態で展示しています。バーチャルツアーやVRを用いた三次元展示など、最先端の展示方法も取り入れ、文化・芸術の普及に取り組んでいます。

新しい取り組みとしての文化・芸術支援活動

アメリカに本社を置くラグジュアリーカードは、創業者の芸術に対する強いこだわりから、会員専用の季刊誌で、毎号こだわりのアーティストの作品をハイライトし、独占取材するなど、芸術を紹介する活動を行ってきました。二〇一六年の日本におけるクレジットカードの発行を機に、会員のライフスタイルの一部に一流の芸術に触れる機会を少しでも提供できればという想いから、文化・芸術を広くサポートできるものとして、国立美術館への支援を始め、会員に美術鑑賞の機会を提供するなど、芸術に触れる生活が多くの人の日常となるよう、サービスと連携させた文化の伝播に努めています。

日本電子株式会社は、これまでは事業に沿った理科学の分野での社会貢献活動を数多く行ってきましたが、二〇一六年より、美術と音楽芸術の発展に寄与する目的で様々な支援活動を始めました。美術の分野ではMOMAT支援サークルを通して当館への支援を、音楽の分野では日本フィルハーモニー交響楽団などへの寄附を行っています。

美術館支援の形

当館では、ここ数年の外国人来館者の増加に対応するため、館内の案内やキャプション、音声ガイドなどを多言語化する取り組みを行っています。例えば、これまで日本語と英語で提供していた音声ガイドを、二〇一七年に多言語化しました〔註2〕。このシステムの開発とコンテンツの一部などを、大日本印刷株式会社から美術館支援という形でご提供いただいています。このように、MOMAT支援サークルでは、企業が持つノウハウや技術などによる支援も可能としており、様々な形でのご支援を募っています。

特典の活用

MOMAT支援サークルでは、パートナー企業の皆さまには、社員証のご提示で、所蔵作品展を何度でも無料でご見学いただける特典を提供しています。

アバントグループは、これまで行ってきた社会貢献事業の中では、当館への支援が初めての文化支援となりましたが、パートナーシップ契約を締結してから二年が経過し、これまで美術館とは縁遠かった従業員も含め、本特典を利用するなどして、現在では多くの従業員が自発的に美術館に足を運ぶようになり、日常生活の中に美術の存在が定着したとご好評をいただいています。

オフィスが当館から徒歩十分の場所にあるパシフィックコンサルタンツでは、地の利を活かし、金曜日の終業後に美術館を訪れる〔註3〕ことを推奨し、イントラネットなどで積極的に情報提供するなど、従業員のワーク・ライフ・バランスの向上に活用いただいています。

このように、本制度は従業員の働く活力を養う心の充実に注力する企業の皆さまにご好評をいただいています。
(ファンドレイジング担当)

註

1 出典 公益財団法人石橋財団ホームページ 石橋文化センター建設寄贈
http://www.ishibashi-foundation.or.jp/funder/ishibashi_cultural_center.html

2 所蔵作品展において、主要作品の解説を、英語、中国語、韓国語に翻訳し、ガイドアプリにより文字テキストと音声で提供。無料のアプリは美術館でもダウンロードが可能。

3 金・土曜日は二十時まで開館。